JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	伝統工芸イノベータを養成する３
Author(s)	
Citation	JAIST社会イノベーション・シリーズ４，36
Issue Date	2010-11
Type	Others
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/9227
Rights	
Description	

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

（3）業種や産地を超えたネットワークの形成

伝統的な工芸品の世界で勝負をかける者、工業製品との組み合わせに挑戦する者、伝統工芸によって生活をゆたかにすることを提案する者 ― 受講生の挑戦の仕方は様々です。そのような熱心な受講生の間で交流が進み、コミュニケーションが活性化した結果、小さなネットワークが生まれ、異業種を巻き込みながら産地を超えたネットワークに拡大しつつあります。受講生同士の情報交換はもとより、仕事の相談、受発注も始まっています。産地間、業種間の競争と補完の関係をうまく築きながら、新たな試みに挑戦する姿が増えています。また、修了生同士が産地を跨いでグループを形成し、展示会を企画・実施する事例も増えてきました。

（4）地域づくりへの展開

伝統工芸 MOT コースの選択科目である「地域再生システム論」は、JAIST が内閣府と連携して平成18年より開講している講座です。JAIST の大学院生が受講するほか、地域住民、自治体職員の体験聴講の機会となっており、そこに伝統工芸 MOT コースの受講生も参加することによって、地域住民間の交流が促進され、地域づくりのための新たな企画が生まれてきます。

例えば、受講した加賀市の職員はこの講義で山中漆器を活かした地域再生計画案を立案し、それを基に民間助成財団の助成金を獲得してさらなる調査を進め、20年度、その成果を内閣府に「漆のふるさと」山中温泉地域再生計画として申請し、認定を受けています。

また、能美市においても受講生が立案した地域再生計画案が、市の九谷焼を活用した地域づくり振興のための計画に反映されるなどの成果をあげています。

3 今後の展望

JAIST では、伝統工芸イノベータになるための教育プログラムとして提供している3つのコースを毎年改善しています。各コースにはそれぞれ目標がありますが、共通することがあります。それは受講生一人一人が自分の課題を考え抜かなければならないということです。考えることは面倒なことですし、自分の考えを他人に論理的に伝えることは難しい作業です。そこで、その作業を受講生同士が議論することで助け合うことを促しています。教室で議論する仲間を一人でも多く見つけてほしいのです。

事業4年度目が終わると全コースの修了生の延べ人数は200名を超えます。最近では修了生が母体となって自発的に商品開発や展示会を実施する事例も出ています。例えば、2期生を中心に形成された石川の伝統工芸を愛でる会は、すでに3度の展示会を企画・実施しています。また、九谷焼の事業者で形成された九谷塾は、メンバー9名のうち、代表を含め5名が修了生で、商品企画・開発を進め、22年度は海外での展示会を企画・実施しています。

受講生・修了生が、自らの商品企画を基に国や地方自治体の補助金を獲得して、商品開発、販路開拓を行う事例も増えてきました。自ら考えた企画で事業や産地の未来を拓いています。

JAIST では受講生同士の産地を超えた結びつきが、修了後も育っていき、地域に新たな胎動を生むことを期待しています。そのため、受講生・修了生の活動を支援しています。

JAIST 社会イノベーション・シリーズ 4

発　行　2010年11月

発行所　国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学・地域・イノベーション研究センター
〒923-1292　石川県能美市旭台 1-1　知識科学研究科棟 II 7 階

本誌は、文部科学省科学技術振興調整費地域再生人材創出拠点の形成プログラムの助成を得て発行しております。

■本誌に関するご意見、お問い合わせ
TEL：0761-51-1839　FAX：0761-51-1767　E-mail：dento-secr@jaist.ac.jp

JAIST
JAPAN ADVANCED INSTITUTE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY 1990
北陸先端科学技術大学院大学

JAIST SOCIAL INNOVATION SERIES

社会イノベーション・シリーズ 4

伝統工芸イノベータを養成する 3

平成 19 年度から始まった JAIST の石川伝統工芸イノベータ養成ユニット。伝統工芸を軸に地域活性化を図り、業界を牽引していくような人材（伝統工芸イノベータ）を育てようという試みで、そのために必要な教育プログラムの構築や修了生が活躍する環境を整えていくことが目標です。第3期までに延べ170名を超える修了生を生んでおり、修了生グループによる独自の活動も増えてきました。現在4期目を開講中、ますます活性化しています！

No.36

1 3つのコースで進化する

石川伝統工芸イノベータ養成ユニットで提供する教育プログラムでは、3つのコースを提供しています。

まずは、伝統工芸MOTコース。必修科目の「伝統工芸とマネジメント」「伝統工芸 MOT 改革実践ゼミ」「伝統工芸と先端科学技術」及び選択科目の「地域再生システム論」の4科目で構成されており、伝統工芸イノベータになるための最初の関門です。
必修科目は本学の教授陣によるMOT教育、市場で新たな挑戦をしているフロンティアや他の産地のトップランナーによる先進事例の講義を中心としたコースで、成果報告会では本学オリジナルの4画面思考法による発表があります。

また、選択科目の地域再生システム論は、本学が全国に先駆けて開講した講座で、講義とグループワークを主体にした教育プログラムです。自治体職員、地域住民、民間企業、本学の大学院生が一緒のテーブルについて、地域の課題とその解決策を検討し、最終日はグループ毎に地域再生計画案として発表します。

つぎに、産地MOT実践塾。商品企画に特化したコースで、本学キャンパスで開講し、正味2ヵ月半で商品企画を作成、プレゼンテーションができるようになります。内容は、テーマやシーンの検討、顧客プロファイルの設定、商品概要の検討、顧客に訴求するセールス・ポイントの抽出、市場の調査・分析（ポジショニング・マップ）、価格設定・売り方の検討、ストーリー作成、事業可能性の検討など盛りだくさん。グループ演習を多く取り入れて、受講生同士が議論する機会を設け、専門家のアドバイスも受けながら検討を進めます。

最後は、商品開発実践プロジェクトです。商品企画のブラッシュ・アップ、ビジネス・プランの検討した上で、デザイン・レビュー、商品開発を進めます。最後はバイヤー応対演習、成果報告会を兼ねて、東京の有名展示会に出展します。

グループワークの様子

教育プログラムの構成

10月～12月	1月～3月	4月～11月
伝統工芸MOTコース（地域再生システム論）	産地MOT実践塾	商品開発実践プロジェクト
伝統工芸を取り巻く環境について、知識を得る 自分の考えをまとめる ・現状を分析する（SWOT） ・理想を掲げる ・短期的な目標を設定する ・行動計画を立てる 地域課題を検討、計画策定（地域再生システム論）	伝統工芸を取り巻く環境について、知識を得る ・テーマ、シーンを検討する ・顧客を絞り込む ・商品を検討する ・顧客に訴求するセールスポイントを考える ・市場を調査し、分析する ・価格、売り方を考える ・ストーリーを作成する ・事業可能性を検討する	商品開発を行う ビジネス・プランを考える 販促方法を考える（パッケージ、フライヤー含む） ディスプレイ手法を学ぶ 展示会に出展し、バイヤーの応対をする

2 これまでの成果

（1）修了生数

事業計画で予定していた人材養成の目標値（5年間）は、伝統工芸MOTコースが50名、産地MOT実践塾が100名、商品開発実践プロジェクトが20名です。

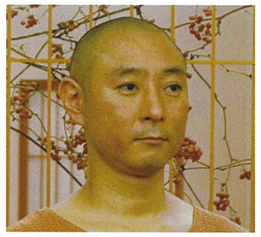
平成22年11月末（第3期まで）の実績は、伝統工芸MOTコースが73名、産地MOT実践塾が63名、商品開発実践プロジェクトが38名です。

事業開始当初は九谷焼、山中漆器を中心に始めた教育プログラムも、最近では石川県内の各産地はもとより、県外の富山県高岡市や東京都から来る受講生も出てきました。

（2）新たな商品、市場の開拓

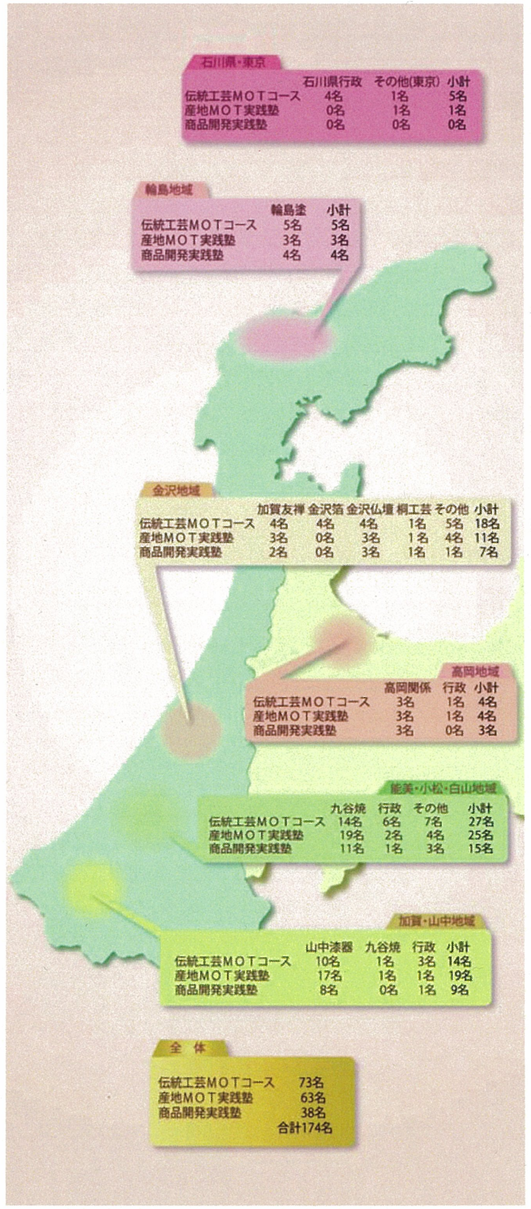
1年目から受講生の間で交流が進み、異業種による商品開発を行った事例が出ています。九谷焼や山中漆器など石川県の伝統工芸を活用したUSBメモリースティックは、新聞・雑誌にも取り上げられ話題を呼び、海外への販路開拓まで進んでいます。

また、平成 20 年9月、成果報告会と演習を兼ね、東京で開催された国際見本市、第 66 回東京インターナショナル・ギフト・ショーに出展した際、受講生の企画した商品を各種コンテストに出品しました。そのうちのひとつ、木製漆塗り洗面台は、「暮らしを飾る+αインテリアコンテスト」で準大賞を受賞し、伝統工芸における商品づくりの可能性を示しました。この受賞も新聞記事として大きく取り上げられ、他の受講生や本学のスタッフの励みとなりました。


山谷尚敏さん（加賀市）

木製漆塗り洗面台

地域別の修了生業種内訳（2007.10～2010.11）



TRADITIONAL CRAFT INNOVATOR